

# 大城ひかるのベトナム



## 通信

- 2 -

シンチャオ  
(Xin chào)  
おきなわ



感染者が発生した地域はロープが張られ出入り禁止に (佐久間武史撮影)

2022年10月、私はほぼ3年ぶりに帰沖することができ、家族や懐かしい友人と再会することができました。これほど長く帰れなかった理由

は、もちろんコロナ禍です。皆さまがコロナに対して最初からのくらしい危機感をお持ちだったか分かりませんが、私は本当に呑気なものでした。

一方、ベトナム政府の動きは早く、テト(旧正月)明けの2020年1月31日、中国の感染地域とベトナムを結ぶフライトや外国人の観光ビザ発給を停止。さらに国内のイベント等を中止させ、国民にも参加しないよう呼びかけました。国内の公立学校は登校停止となり、私たちの日本語学校もオンライン授業での新年度スタートとなりました。その5日後には入国制限を中国全土に広げ、

## 社会変化に戸惑う2020年

中国からの入国拒否と、国内の動きを禁止したのです。

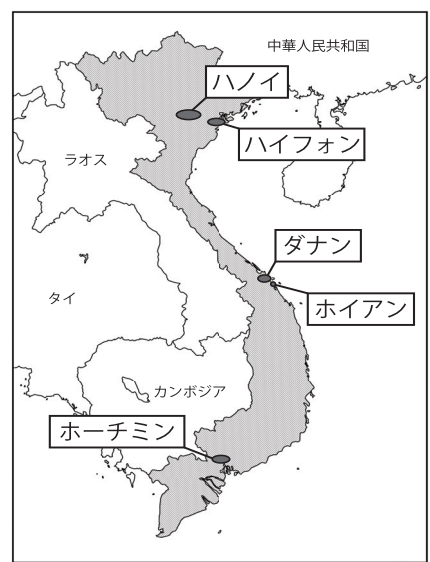
ベトナムでは当初、感染者が首都のハノイや港町のハイフォン市を中心とする北部に集中していたので、不思議に思い同僚の教師にたずねたところ、北部は経済的に貧しい家が多く、海外に出稼ぎに行った人が罹患して戻って来ると聞かされ、ベトナムの地図を広げて妙に納得したものです。3月1日には感染者が多かった韓国からの入国禁止、そして3月22日から全ての外国人の入国が禁止となりました。その後、国内の感染者の増減の状況に応じて、

私たちの学校がオンライン授業とオフライン授業を繰り返すうち、コロナは徐々に南下してきました。2020年夏には、中部のダナン市で感染者が広がり、運悪く近くの世界遺産のホイアンを観光した日本人同僚がホイミンへ戻ってきて隔離されることになったとか、ハノイやダナンでは社会隔離が行われているとか、感染者が出た村は自由に入出入りできないよう封鎖されているとか、ホイミンでもカラオケ店やマッサージ店など人との接触が高い場所は一時的に営業停止になっているといった情報はありました。

しかし、この状態が長く続くとは想像もできず、私は旧盆に沖縄へ帰る航空機のチケットを申し込んだり、日本へ帰れないならベトナム国内はどうかと旅行を計画するなど、危機感のなさを露呈し続けたのです。

言葉の分からない外国にいて情報が少なかったため、出遅れることはよくありました。仕事帰りに寄ったスーパーでは棚がガラガラでレジには長蛇の列。ホイミンへの流通網が制限されそうと聞いた市民が食料や必需品を求めて殺到したそうです。映画館がいつの間にか閉まっていたり、営業再開していたりと、色々なことがコロナを交わっているようにも見えました。

滞在歴が短く、ベトナムのSNSのネットワークの外側にいる私のような外国人はその変わり身の早さにその後、何度も驚かされることになるのですが、当時の私にとってコロナより関心が高かったのは、日本人教員が相次いで感染していたデング熱の方だったので



ベトナム地図